

恒例の部会長シンポジウム（上期の回顧と下期の展望） 開催についてのアンケート調査結果（10部会）

- ◆ 前提条件（ブラジル日本商工会議所ガイドライン／2020年6月時点）
約20名以上の参加者（※）が集まるフィジカルなシンポジウムの開催は中止。但し Web 方式は開催可。
(※) 去る5月6日、会議所の大会議室で9人が参加して監事会を実施（3密対策下、換気、2M間隔、マスク着用、マイク使用、アルコール消毒液設置）。準備中のアクリル仕切板を併用すれば、1人/機のレイアウト（20机）で約20人のプレゼンシャル対応可能。
- ◆ 問い合わせ相談先：事務局長宛てお気軽に！ 携帯55-11-99987-5413
(WhatsAppビデオも可)
- ◆ アンケート対象：10業種部会（食品、生活産業、自動車、電機情報通信、金融、化学品、機械金属、貿易、コンサルタント、運輸サービス）
- ◆ 1部会1回答（→賛成の箇所に○をご記入下さい）=>1部会数回答（副部会長）に変更
- ◆ アンケート開始6月24日、〆切：6月30日=>7月3日に延期

アンケート結果の纏め：いつもご支援・ご協力心から深謝いたします。以下ご覧ください。（7月6日回答者にフィードバック）

Q1) コロナの終息が見通せない中、下期の部会長シンポジウム開催について伺います。

- ① コロナと共存を覚悟、部会懇談会および部会長シンポジウム何れも開催すべき（1部会）
- ② その他（9部会）

Q1) について

全部会から回答を頂いたが、一部の部会によっては人事異動で部会長が帰国（部会長不在）、あるいは他の部会では部会長、副部会長ともに日本に一時避難帰国のためアンケート回収が困難、かかる事情から副部会長にもアンケート回答にご協力頂いた。

Q1①の部会懇談会および部会長シンポジウムを開催すべきと、直接○印の回答は僅か1業種部会のみであった。残り9部会は今回の未曾有な非常事態を重く受け止め中止を希望している。一方、9部会の16人中4人（4分の1）が、この難局をどう乗り切るか、日本から見てブラジルをどう評価するのか、と云う個人的な立場で無理の無い開催も示唆している。また、4人中の一部には『新型コロナ拡大状況下で

の自社の状況と対策等』を副題としての例を挙げ、また新総領事（野口総領事後任）からのメッセージも頂きたい提案がある。

部会内の懇談会開催については、「アンケート回収のみで資料は Web 閲覧で十分とか、開催の場合はオンライン対応が現実的、資料は従来通り作成の上公開、メールによる資料提出」とする意見が 4 人、シンポジウム開催を示唆する人数を合わせれば計 8 人（過半数）となり、部会内での懇談会開催を希望している様に見られる。その時は上述にある副題例も参考にするべきと思われる。今回は業種間による違いが著しく大きいため、部会長のリーダーシップやご判断に任せて弾力的に対応して行くのも良策かも知れない。

Q2,Q3、Q4,Q5：下記詳細参照

設問および回答（設問の所定欄に正しく記入された分のみ有効回答とした）

Q1) コロナの終息が見通せない中、下期の部会長シンポジウム開催について伺います。

- ① コロナと共存を覚悟、部会懇談会および部会長シンポジウム何れも開催すべき（1 部会）
- ② その他（9 部会）

その他 9 部会の纏め（部会長、副部会長の意見も含む計 16 人）

- 1) 部会懇談会やシンポジウム：非常事態下で余裕もなく一旦中止、オンラインでも開催中止又は延期すべき：8 人
- 2) しかし、この難局をどう乗り越えようとしているのか？今後のブラジルをどう見ているのかを知りたい、意見を取り纏め Web なら開催しても良いが但し、事業継続困難な方への配慮が必要：4 人（Q1①に直接回答を避け、中立的な立場を示唆しながら 4 人の一部には『新型コロナ拡大状況下での自社の状況と対策等』の副題および新総領事（野口総領事後任）からのメッセージを頂きたい提案もある）
- 3) 部会懇談会：一時帰国者も多くアンケート回収のみで資料は Web 閲覧で十分、開催の場合はオンライン対応が現実的、資料は従来通り作成の上公開、メールによる資料提出、4 人

その他 9 部会からの回答要約

- ❖ 「上半期は業種によっては非常事態ともいえる深刻な死活問題に直面しており、社外の人に見せる資料をまとめる時間も、精神的余裕もない状況。下半期は状況を見ながら前もってアンケートをとって判断したい」

- ❖ 「・部会懇談会については、一時帰国者も多く、アンケート回収のみなど、会議開催以外の方向を考えたい。
 - ・8月開催のタイミングでは、まだ状況も落ち着いておらず、オンラインでも開催せず、各部会の資料を Web 閲覧することでも十分。
 - ・将来的にオンラインでシンポジウムを行うとしてもオンラインとしては、5時間は長すぎるので、短縮は必須（最大 2.5 時間程度）。
 - ・時間帯は日本からの参加を踏まえ、日本との時差を考慮必要。
 - ・オンラインの場合はプレゼンのみとし、質問はその場では受け付けない（回線への負荷などを考慮要）。」

- ❖ 「情報発信のためにも部長会シンポジウムの開催は良い。他方、今回この調査のために、時間的な制約もあり、各社の意見をうかがう事が出来ていない。部会懇親会の開催可否は各社の事前確認をしたい。会社によっては参加できない、又は都合があるかも知れず。」以下各社状況：
「現地状況考えますと一旦中止もやむを得ない、シンポジウム準備の為の部会等の開催ですら難しいというのが現状ではないかと愚行。こういった状況下において、各企業様毎の対応も様々、昨今の状況も踏まえますと今回は断腸の思いではありますが「中止」という判断もありではないかと思う。」

「アンケートの件、あくまでも私見ですが、現在の感染状況や行動自粛の状況下で、部会懇談会及びシンポジウム何れも従来の形式での開催は延期すべきと考える（当面中止もやむなし）。一方、代替方策の一つとして例えばコロナが終息するまでの暫定措置として WEB 方式での開催はやってみる価値はある。唯、余談ですが、WEB 方式は日本滞在者にとっては昼夜逆転するため少々苦痛と思いますので、時間設定など難しい点があると思っている。」

「シンポジウム開催のアンケート案については異論ありません。個人的にも、各部会（業界）の状況が分かる大事な機会ですので、オンライン（WEB）での対応・開催を期待しておりますが、開催の場合、懇談会もオンライン対応が現実的だと思う。また、シンポジウムについては、日本

からの発表者・参加者を想定して、2日に分けての開催（サンパウロ時間の午前中 x 2回）等の検討・工夫が必要になるかと思えます。」

- ❖ 「部会資料は従来どおり作成の上、公開すべき。従来のように半日に及びシンポジウムをオンライン開催することは実質的に不可能。従って、日程を分割して細切れの形又は開催方法を工夫してシンポジウムをオンライン開催するか、資料公開のみとするかは、理事会又は事務局の判断に従う。」
- ❖ 「部会懇談会はメールによる資料提出のみでよいと思う。部会長シンポジウムは意見とりまとめのうえ WEB 開催 かどうか。または 部会ごとのまとめを事務局からメール配信にて共有 という形もあり得ると思う。」
- ❖ 「・各社とも現況への対応が精一杯であることが予想されること
・日本に一時帰国されている方も多く、集客が難しいこと
・金融環境はまともに語れる状況ではないこと
・Jetro さん等で様々な情報収集の機会が設けられていること
等々からその他欄に○回答」
- ❖ 「コロナ禍において、各業界、企業ともに大打撃を受け、皆さんご苦労されている。精神的に追い込まれるケースもある。今回のシンポジウム開催について、個人的には是非、皆さんがどのようにこの難局を乗り越えようとしているのか？今後のブラジルをどう見ているのかを知りたいと思っている。撤退の意見までも出ている。一部メンバーの言われるアンケート調査の展開（開催する余裕ない）でも良い。大変な時期だから、何もやらないでは、商工会議所の意義がなくなる。今だからこそ、会員企業にとって有益でなければならない。前回の理事会では、退会企業、会費徴収の話に終始し、まじめに参加継続している企業にとって、会議所がどう寄与するか、メリットを与えるかの議論をする余裕を失っていると感じた。余裕のない状況は理解していますが。多くの会員企業が、コロナ禍において、シンポジウムを開催する余裕などないとの意見がありますことを付け加えさせていただく。もし、シンポジウム開催をしたとしても、通常とは違うテーマ設定、発表資料作成など考える必要がある。」

- ❖ 「部会皆様の集約意見、纏めておらず申し訳ございません。部会長会社としては2020年度下期8月27日に関しましては開催中止を希望する。ZOOM TEAMS方式では資料共有画面と参加者の反応読み取りが同時に困難で、長時間シンポジウムとしてはどうかと思う次第。」
- ❖ 「オンラインで実施するのであれば、いいのではないかと考える。また、すべきとは言い切っているわけではなく、開催をしてもいいのではというところである。ただ、部会の中には現在事業を継続するのに苦労されている方もいらっしゃると思いますので、部会懇談会、部会長シンポジウムをそのような方への配慮は必要かと考える。」

Q2) Q1①の開催すべきとの回答者のみお答えください。部会内で懇談会を開催する理由や目的について伺います。(複数回答可)

- ① 部会内での他社動向、将来の事業展開や情報・意見交換が目的。(自動車)
- ② その時は部会メンバー間でWebによる開催を望む(自動車)
- ③ その他()

Q3) Q2の回答者のみ部会長シンポジウム開催の必要性について、お答えください。(複数回答可)

- ① 全業種別部会の横断的な情報交換(自動車)
- ② 本社やサプライヤー関係者に他業界の事情やコロナ対策状況を正しく周知理解
- ③ 自社のコロナ対策との違いを知る
- ④ スタートアップ等あらたなビジネス機会の探求
- ⑤ その他

Q4) ご推薦のWeb方式(有料)の中からベストの順(◎、○)で2つだけお選びください。(推薦ポイント:セキュリティー、アカウント作成の有無、最大接続人数、画面共有機能の有無、会議録画機能の有無、価格等)

- ① Zoom : 4部会
- ② Webex : 2部会
- ③ Microsoft Team : 7部会
- ④ その他 : Google Meet

コメント

- ❖ 「どのシステムを選択してもそれぞれのよしあしはあると思います。大勢でやる時は自社経験より、ITシステムそのものより、実際にキーなのはそれをつかっただけの運営方法・会議ルールなどだと思います。特に質疑応答の方法、プレゼンシェアする方法（事前試験）、ミュート・ルール、動画／画像・ルール（回線状況によっては画像が多発すると途切れる事もあり得・・・など。）
- ❖ 「部会開催にあたっては、会員各社のニーズを把握の上、対応の予定。会長・副会長会社において、いずれのシステムでも会議主催が可能。仮にシンポジウムをオンラインで行う場合は、サーベイモンキー等の形で会員会社のニーズ調査を行うことを希望します。」
- ❖ 「やるならば、ZOOM,TEAMS なのでしょうが、画面共有時は出席者反応も見づらいものとなりますし、以下、3月のような長時間にわたるシンポジウムは困難と考えております。」

Q5) 本シンポジウム開催の件以外に、特に今の様な非常事態下において、皆様の部会組織（縦串）を横断的・側面的（横串）にサポートして行くために、至らない不足な点がありましたらご遠慮なくご指摘下さい。

- ❖ 「先日の某国際監査法人の講師とのWEB懇親会（各自飲み物用意）は大変良かったと思う。このような工夫は大変助かる。」、「少し観点ずれますが、各社がどのようにコロナ対応しているのか？一時帰国の有無等も含めて頻度高く情報供給できるようにしてもらいたい。」
- ❖ 「本シンポジウムをWEBであれ各部会まとめ資料の配信の形であれ何らかの形で開催の場合は、テーマを現状に即して設定頂き（例；『新型コロナ拡大状況下での自社の状況と対策等』）。早めにご案内頂けると有難い。また、7月末に帰任されます野口総領事の後任の総領事のメッセージと各部会の資料へのメッセージなども合わせてこのシンポジウムのタイミングで配信頂けると良いのではないか。」